

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175300409		
法人名	㈱ワークサポート		
事業所名	グループホームあさひ		
所在地	紋別郡遠軽町大通南2丁目1-21		
自己評価作成日	平成23年1月12日	評価結果市町村受理日	平成23年4月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の尊厳を重んじ、その入らし暮らしをさせるための提案・相談し、認知症状があり、意思の伝達が困難な場合においても、意向や想いを探る努力をすることで、利用者の方々が安心、平穩に生活できるよう支援していく。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175300409&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE		
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38		
訪問調査日	平成23年3月9日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

遠軽町中心部の商店街に位置する当事業所は、2階建て2ユニットで開設して5年が経ち、日々の積み重ねが地域との関係を少しずつ深めています。建物内は明るく広々とした造りで、廊下で歩行訓練をしたり、飾りつけの工夫が生活感をもたらしています。家族が訪問しやすい環境にあり、家族の要望等にも柔軟に対応するなど、良好な関係を築いています。22年4月に交代した管理者と職員が定めた新しい理念「笑顔あふれる暮らし」は利用者が楽しく過ごしてほしい、笑顔が見たい、との思いが込められており職員は常に意識し、利用者の笑顔を引き出す楽しみを実現することを心掛けています。職員の入れ代わりもあり、管理者が事業所内研修の充実を図る中で職員は研修会を通じ、自分自身を高め、様々な知識を得ようと意欲的に取り組んでいます。管理者は利用者の状態がよく見えてくる分かり易い記録の工夫をし、職員同士で共有し、ケアの方向性の統一を図っています。管理者、職員の気付きや意欲が大きな原動力となり、事業所の更なるサービスの向上に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしく生きる」を基本に置き、利用者の気持ちに寄り添い、『笑顔のあふれる暮らし』が実践できるようスタッフは意見を交換して、ケアの統一を図るよう努めている。	22年4月に定めた新しい理念「笑顔あふれる暮らし」を念頭に、職員は常に利用者の笑顔を引き出す具体的なケアについて意見の統一を図り、取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入、春・秋の清掃活動やイベント等に参加し、又、近くの公園まで入居者の方達と散歩する事もあり、顔見知りの方も出来挨拶を交わしたりしている。	町内会に加入し、清掃活動や町内会総会への参加、散歩時の挨拶、商店街のイベント見学等を通し、少しずつ地域の理解を深めています。実習生の受け入れ機会も積極的に設けています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所では、ヘルパー実習生を積極的に受け入れ、人材育成に貢献出来るように努めている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1度開催しており施設の状況・行事等の質疑応答が行われ、出された意見を真摯に受け止め次の取り組みに活かせるように努めている。	民生委員、町福祉課職員、利用者家族、近隣住民等をメンバーとし、22年度は4回開催されています。事業所の活動報告等で活発な話し合いが行われ、議事録を作成し、事業所運営に活用しています。今後はメンバーのあり方を検討しています。	地域の協力や理解を深める機会とし、検討しているメンバーのあり方や定期開催(年6回)を目指し、更なる会議の充実を図り、サービス向上に繋げることを期待しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	諸所類提出時に合わせて、介護保険担当者との接する機会があるため、入居者・請求関係野間問題などを話し合っている。	行政の担当者が運営推進会議に参加し、情報共有を図ると共に、常に相談できる協力関係を築いています。権利擁護が必要と思われる利用者については連携し、支援に努めています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を掲げ、勉強会でも意見交換をしており、介護マニュアルと併用しながらケアをおこなっている。	職員は事業所内研修を通じ、共通認識を図り、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいます。また、玄関に身体拘束排除宣言を掲げています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催したり、スタッフ間で情報を交換するなどして、見過ごす事のないように努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き理解を深めるようにしている。又、対応が必要と思われる利用者がある場合は、随時、スタッフに説明、アドバイスを行い利用者の支援に結びつくように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明している。契約時には、事業所のケアに関する考え方や取り組み等を説明、疑問には理解・納得できるまで説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。出された意見を真摯に受け止め、今後の運営に反映させていきたいと思っている。	家族の訪問時や状況報告する電話時などで常に問いかけ、何でも言って貰える関係作りを心掛け、家族の要望等には柔軟に対応しています。運営推進会議を意見表出の機会とし、メンバー以外の家族参加を検討しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員による月一回の全体会議で意思統一できる場を設けており、意見等の即回答で対応している。	管理者は常に職員の意見や要望を聞くよう心掛けると共に、全体会議が意見交換、意思統一を図る場とし、また、施設長、管理者が職員の意見を聞かれる貴重な場として活用しています。職員の意欲が活き活き働ける環境になっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	疲労やストレスの要因について気配り、勤務時間中にも気分転換出来る休憩室を確保したり、職員同士の人間関係を把握するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加する機会を確保、ミーティング時に報告して情報を共有するようにしている。又、職員の資格取得を奨励、資質向上を目指して取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年一回ではあるが、包括支援センター主催の遠軽町にある介護事業所の会議にも参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況を把握するように努め、不安や要望等に耳を傾け、ご本人の気持ちに寄り添い、安心していただけるように配慮しながら関係づくりにつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前見学をしてもらったり、ご家族の要望を理解し、事業所としてどのような対応ができるか事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況等を確認し柔軟な対応を行い、他のサービス利用も考慮して支援に繋げるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えをスタッフが共有しており、普段から教授する場面を多く持てるように工夫し、支援する側、支援される側という意識を持たず、お互いが協働しながら生活できるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら、日々の出来事や気付いた情報の共有に努め、一緒に考え共に支えていくという姿勢を伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が来てくれたり、友人宅に電話をかけたたりして、交流が続くように支援に努めている。。	今まで利用していた美容院へ出掛けたり、友人が遊びに来たり、年賀状等を書くなど、利用者一人ひとりの生活習慣を尊重し、関係継続の支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係について、すべてのスタッフが情報を共有し、日々の状態変化にきくくばり孤立する事のないよう、利用者同士の支え合いを引き出し、関係が円滑にいくように働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、必要に応じて相談や支援に関わっていく事を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で把握に努め、言葉や表情から真意を推し測り、それとなく確認するようにしている。	利用者との日々の関わりを通し、会話や表情などから希望、意向の把握に努め、利用者の気持ちにより添い、笑顔のある暮らしになるよう取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者自身の言葉、家族や友人の訪問時に話を聞き把握に努めている。又、プライバシーに関する事なので十分に配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の暮らしのリズムを把握、出来ない事より出来る事に注目して、支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の視点にたち、その人らしく暮らしていく為に何を支援すればいいか、日々の関わりの中で気付いた事を情報交換し本人の思いや意向を反映させた介護計画を作成、現状に即しているか必要に応じて見直している。	利用者、家族の希望や要望、職員の気付きや意見を反映しながら、ユニット毎モニタリング、サービス担当者会議を開催し、状況に即した本人本位の介護計画を作成しています。介護計画はいつでも職員が確認できるようになっており、ケアの統一に結びついています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを用意し、水分・食事・排泄等を記入、生活の様子も記録しており、情報共有を徹底している。又、記録を元に介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族が安心して生活出来るように必要な支援を柔軟な姿勢で行い、その都度のニーズに対応していくように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が安心して地域で暮らせるように、民生委員と意見交換する機会をもうけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・家族の希望する医療機関を受診、希望する利用者には訪問診療の支援もしており、医療連携体制の導入により、訪問看護も支援に含め密接に医療機関との連携が取れるようになっている。	利用者、家族の希望を優先したかかりつけ医による受診を行っています。遠方は家族対応ですが、近隣は支援を行っています。地元や近隣医療機関の定期的な往診が月1回ずつあり、状況の変化があれば家族に報告し利用者、家族の安心に繋がっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは関わる中で、日頃の健康面や医療面の情報を訪問看護師に相談、適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援に関する情報を医療機関に提供し、入院によるダメージを極力防ぐため医師と話し合いの機会をもち、事業所内での対応可能な段階で早く退院できるよう家族とも情報を交換しながら退院支援に繋げている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者や家族の意向を踏まえ、早期から話し合いの機会を持って方針の統一を図り、本人・家族の意向があれば、医療連携体制加算により、看取りも実施していく方針である。	重度化した場合や終末期に向けては、基本方針が出来ており、家族、医療機関、訪問看護師、職員との話が整えば行う方向にあります。利用契約時に利用者、家族には説明をして早期の段階で方針を共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変・事故発生時に備えて、応急手当などの訓練を定期的に行い、又、医療機関とも密に連携を図り対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーの設置、定期的に避難訓練を実施、救急救命講習を受講するなど緊急時に備えている。	消防署の指導のもと、4月と9月に避難訓練を実施しています。9月は夜間想定訓練を行い災害に対する備えをしています。また、救急救命の訓練も実施しており安心、安全の体制を構築しています。	消防署の指導のもと避難訓練を行っています。が、事業所だけの訓練にとどまっています。地域との協力が得られるような関係の構築と協力体制の整備を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者を人生の先輩であることを常に意識し、敬意をはらって接している。又、プライバシー保護には十分に気配りしている。	管理者、職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、声掛けには注意を払い、誇りや、プライバシーを傷つけないように常に意識して対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢を提案、自分で決めて頂けるように働きかけ、スタッフの押し付けがないように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、入居者一人ひとりの、その時の思いや体調に配慮しながら柔軟に支援していくよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフの価値観を押し付ける事なく、入居者自身に自己決定もらえるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃から好みの物を聞いて献立に載せたり、同じ食卓を囲んで食事をしたり、調理・片付けもスタッフと一緒にしてもらっている。	献立は本社栄養士が作成し調理職員が料理をしています。利用者は一緒に調理をしたり片づけをしたりと役割を持って食事を楽しんでいます。希望は会話の中から把握して献立に取り入れるように努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を記録し、偏りのない、入居者に応じた量が摂取できるように調理も工夫して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内を他人に触れられる入居者の気持ちに配慮しつつ、一人ひとりに応じて		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し、尿意のない入居者は時間を見計らってトイレ誘導したり、下着に尿取りパットのみ使用するなど、入居者に応じた支援をしている。	利用者一人ひとりの排泄チェック表を付けパターンを把握しトイレ誘導を行うなどして自立に向けた支援に努めています。夜間は居室でのポータブルトイレの使用など利用者合った支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量・食事量・運動などに気を配り、入居者に応じた予防に取り組み、自然排便ができるように支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	固定時間ではなく、13:00から入りたい時間に入浴可能な体制を設けている。	週2回、時間を決めています。利用者の希望に沿った回数と入浴時間にしていきます。入浴のほかに足が冷たい利用者のために足浴も行って健康維持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、その時々状況に応じて、安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成、スタッフが内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に渡し服用の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の得意な分野で力を発揮できるように支援している。又、レクリエーションなどで気分転換を図られるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて、外食・散歩等に出かけている。	利用者一人ひとりの希望に沿い、町内での買い物やお祭り、近隣町村の花公園等、普段行かない場所へも行って楽しみを得られるように外出の支援に努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て少額のお金を持っている入居者もあり、管理している入居者でも、外出時・通院時の支払いは本人にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状を出すための支援を欠かさずに行い、入居者が希望すれば、いつでも電話ができるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調理する音や匂い、食器を洗う音など自然に聞こえてくる音や匂いがあり、その月々によって鍋料理・ジンギスカン・生寿司等、五感や季節感を感じられるものを意識的に取り入れる工夫をしている。	玄関には利用者の作った俳句や写真が飾られたり、季節の花が活けられたりで季節感を取り入れています。廊下は広く戸外に出られない冬に歩くのに役立っています。居間は日当たりが良く利用者が寛げる空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダにベンチやテーブルを置いて、日光浴をしたり、お茶を飲んだりできるスペースを確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の好み馴染みの物などを生活スタイルに合わせて用意しカーペットやカーテンなどにも細やかな配慮がある。	利用者の居室には家具やカーペットなど馴染みの物を用意したり、仏壇や家族の写真、好みの歌手の写真を置いて居心地よく暮らせる様に工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状況に合わせて、廊下・浴室・トイレなどの居住環境が適しているかを見直し安全確保と自立への配慮をしている。		